

諫早市

特別要望

令和7年7月

令和5年及び令和6年農林水産大臣談話に基づく有明海再生の加速化、調整池の水質保全目標達成について



北部九州インターハイローイング競技の様子



300万本のコスモス祭り



要 望 書

記

国営諫早湾干拓事業は、地域農業の振興、市民の安全・安心に大きく寄与しており、令和2年7月、令和3年8月の豪雨は昭和57年の長崎大水害に匹敵するものでしたが、市街地を含む諫早湾周辺地域では、ほとんど被害は生じず、事業の防災効果が遺憾なく発揮されております。また、干拓地においては、広大な畑地、肥沃な土壌を活かした環境にやさしい効率的な農業が営まれています。

本事業をめぐっては、令和5年3月、「開門をしないこと」で司法判断が統一されたことを受け農林水産大臣談話が示され、漁業団体の賛同を得て、令和6年12月に有明海再生加速化対策交付金創設により有明海再生の取組を後押しする旨の農林水産大臣談話が示されました。

諫早湾においては、諫早湾漁業協同組合が「小長井牡蠣」や「華漣」に次ぐ産地化・ブランド化を目指し、「諫早湾岩ガキ」の養殖に取り組まれ、漁場環境は改善に向けた効果が見えつつありますが、諫早湾内の漁業者は有明海の再生を実感するに至っておらず、漁業者が有明海再生の成果を実感できるよう、同交付金の活用などによる有明海再生の加速化が必要と考えております。

調整池や干陸地の周辺はローイング競技の練習場として利用され、昨年8月には北部九州インターハイのローイング競技が開催されました。更に潮受堤防道路をマラソンコースに取り入れた「(仮称)長崎ミュージックマラソン」の開催を計画しています。干陸地ではコスモスや菜の花などの植栽、特産「幻の高来そば」栽培などの利活用がなされております。

一方、調整池の水質は、これまで様々な調査、対策に取り組んできていますが未だ目標を達成できていないことに加え、調整池周辺の環境改善などの課題が残っております。

つきましては、以下の事項について強く要望します。

一 開門によらない有明海再生を目指すとした令和5年3月の農林水産大臣談話、有明海再生の加速化を後押しするとした令和6年12月の農林水産大臣談話に基づき、漁業者が成果を十分実感できるよう、有明海再生の加速化や諫早湾の水産振興を図るために必要な海域環境及び漁場環境の改善等の取り組みを支援すること。

一 交流人口の拡大と地域活性化に向け、地域資源である潮受堤防、調整池や干陸地の一層の利活用を図るため、必要な取り組みを支援すること。

一 調整池の水質保全目標の達成及び調整池周辺の環境改善について、これまでの対策の実績などを踏まえ、必要な予算の確保と効果的な取り組みを推進すること。

令和7年7月

諫 早 市 長 大 久 保 潔 重

諫早市議会議長 北 島 守 幸